

令和五年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署長賞

生活を支える税金

野田市立福田中学校 第三学年 石川 はるか

私は夏になると、毎年困ってしまう出来事があります。それは、通学路に生い茂る雑草だらけの道を自転車を通り抜ける事です。とても大変で、イライラしてしまいます。

そんな時には、母が県や市に連絡をして除草の依頼をします。そんな光景は毎年の出来事で、当然のことだと思い始めていたけれど、数年前までは祖母が除草をしてくれていたことをふと思い出しました。

公共の道路なので、除草をお願いできることは祖母もわかっていたはずでした。それなのに、どうして祖母は自ら大変な除草を引き受けていたのでしょいか。

もう亡くなってしまった祖母にその答えをたずねることはできないので、かわりに母に聞いてみると、

「税金の無駄遣いをしないように、自分たちで出来ることはしようという気持ちがあったんだと思うよ。」

との答えでした。税金を支払っているのだから恩恵を受けることは当然だと思っていた私には、予想できなかった答えでした。

正直なところ、祖母が除草した作業分の費用なんて大したことはないと思ったけれど、そういう気持ちが大切なのかもしれません。税金も限りのある資源なので、すべて自由に使い続けられなくなってしまう。

調べてみると、税収入が縮小したことによって除草作業の予算が削減されてしまった自治体もあるようでした。つまり、除草作業ができない状況が発生してしまったということですね。そういう現実を知ると、やはり祖母のような心がけは大切なことなのだと感じました。本来税金で行われる作業分の祖母の思いやりも、お金ではないけれど税金を納めているのと同じ感覚に思えました。

日本の税収入額は、過去最高額を更新したとニュースで聞きました。それでも税金は足りないようで、私たちが必要とする全ての部分まで税金が行き届くのかはわかりません。税金を必要としているところに税金が行き届いて欲しいなと思います。

今回、この作文を書いたことをきっかけに私たちの生活が税金で支えられているということを改めて感じ、そのことがどれだけありがたいことなのかものかよく分かりました。税金は私たちが生活していく上でなくてはならない存在だと思えます。

私自身も将来社会人となり、税金を納めていく立場になりますが、自分の税金が社会を支える一部であることを自覚しながらしっかり税金を納めていきたいと思いました。